租税教室「SOZEI島」（対話方式）の進行イメージ

＊SOZEI島を国とイメージし、島民が税をどのように負担すべきかを　生徒に考えさせる授業

島全体の経費500万を資産や所得の違う5人の島民がいくらずつ出すかという問題

生徒それぞれが島民の立場になって、自分の支払金額を決めカードに書きます。

皆が書いたカードの金額を黒板に板書して授業を進めます。

　発言メモをチラチラ見ながら授業を進めれば良いのですが、

　生徒と対話に夢中になると、予定していたシナリオの中で、今、どこの部分だっけ？となります。

　そんな時は、落ち着いて、余裕をもって、黙って、発言メモを確認すれば良いのですが、

たびたび､そうならいよう､全体の進行のイメージは、あらかじめ頭の中に置く必要がありま。

（沈黙した場合、その事で生徒が集中することもある）

1. 意見出し

　　生徒に自分が金額を決めた理由や他の人の金額に感じた事を意見発表してもらう

最初の意見出しは、意見が出るまで、とにかく粘る

　　＊生徒が発言したら、褒めるのが基本ですが、拍手をしたら良いと思います。

　　　 生徒も、一緒に拍手したら、授業が盛り上がります。

　　　　同じカードを持っている人が、違う金額を書いているので、そこを意識してコメントする。

2　割り勘という平等な方法に多くの反対が出るのはなぜか考え、発表してもらう

　　割り勘という正真正銘平等な方法が否決されたのはなぜか？

なぜ、反対が出るのか、生徒が実際に出した金額で考える

SOZEIの誰の反対が多いのか、その理由

誰の賛成が多いのか、その理由？

　　もし、別のカードをもらったら、金額が変わりませんか？

　　割り勘という方法は、平均的な人からは賛成が得られやすいが、そうで無い人は反対が多い。

　　多様な人がいれば多様な人の考えになるので、そこに対応する方法を考える必要がある。

シナリオは、割り勘という平等な方法が反対多数で否決されるという設定で作っていますが、賛成が多数に場合のコメントは、発言メモに対応方法を書いています。

　３ 　500万に足りていない一つのグループに注目し、担税力を考える。

　　 ＊誰にどういう理由で払ってもらうか

　　　　生徒が思案中に、SOZEIのそれぞれの平均額を見てコメントする

総平均の金額が９０万を下回っている場合はコメントしない

　　　　（○さんに○○があるから、とシンプルに答えてもらう）

　　消費、所得、固定、相続の４つの概念が出たらコンプリート

　　　国は多様な人が居るので、多様な税の種類を作って対応している

どのグループも500万超えで該当無しの場合は、担税力の説明へスキップ